

## 研修名

応急手当（心肺蘇生、AED使用を含む）に関する研修  
（救命アクションカードの活用）

＜効果的な実施時期＞  
年度始め、5～7月

### 1 研修目的

児童生徒等の生命に関わる事故発生時に、管理職や養護教諭が不在の場合でも、迅速かつ組織的に救命処置を行うことができるようにするとともに、教職員の危機管理意識や資質の向上を図る。

### 2 研修の概要

「救命アクションカード」を活用したシミュレーション訓練を通して、緊急時における初期対応の流れを確認するとともに、組織としての動きや対応について共通理解を図る。

### 3 進め方のポイント

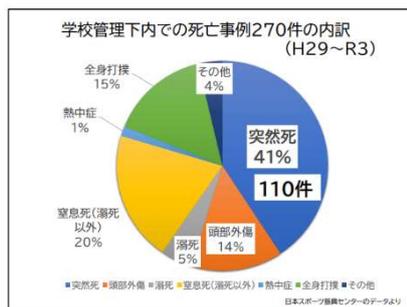
- （1）導入部分において、学校死亡事故のうち突然死が最も多いことに触れ、「学校事故対応に関する指針」や「ASUKAモデル（死戦期呼吸）」の動画から、初期対応の重要性が児童生徒等の命を救うということを理解させる。
- （2）「救命アクションカード」を活用し、緊急時における初期対応の流れや動きについて確認する。
- （3）展開Aでは、事故発生からリーダーが役割分担するまでの動きについて、グループごとにワークシートに書き込ませる。動きのイメージを精査しスムーズに対応できるよう全体で共通理解を図る。
- （4）展開Bでは、事故発生から救急車要請までに必要な動きについて、2つの班に分かれてシミュレーション訓練を行う。その後、発生場所と職員室の動きを動画で振り返り、意見交換を行う。

### 4 準備物

- 進行スライド（※各学校の実情に応じて修正可能）
- ワークシート（Google Jamboard等の活用も可能）
- ビデオカメラ（タブレット）、プロジェクター、スクリーン（モニター）
- 筆記用具
- 心肺蘇生用訓練人形、AEDトレーナー、ビブス（第一発見者・教員用）

### 5 研修のイメージ

＜導入：心臓突然死のデータ、救命アクションカードについて＞ ＜展開：シミュレーション訓練＞



### 6 研修に参加した先生の声

- 緊張感のある訓練だったので、このような訓練が毎年行われることが望ましい。
- 初めての訓練ではないにも関わらず、スムーズに動くことができない部分もあった。先生方の人数や場所が変わったりすることで、気付くことも多かった。
- 動画を見て、自分たちの行動を客観的に振り返ることができた。定期的に訓練を行うことで、いざという時の判断力が身に付くと思う。
- シミュレーション研修後、みんなで反省会を持つことがとても有効だと思う。訓練であっても、一人一人の対応の仕方や行動が違うということが理解できた。緊迫した状況の中で様々な予測をしながら、臨機応変に対応する力が身に付くと思う。



## 7 研修の進め方(例)【展開A(30分)】【展開B(45分)】

時間	内容	進め方	資料等
導入 (10分)	1 心臓突然死の現状と死戦期呼吸について理解する。【一斉】  2 「学校事故対応に関する指針」と「救命アクションカード」について理解する。【一斉】	○心臓突然死の現状について説明する。動画を視聴し、特に、死戦期呼吸について確認させる。  ○「学校事故対応に関する指針」と「救命アクションカード」について説明し、初期対応と組織的な対応が重要であることを認識させる。	進行スライド(1-6) 資料1  進行スライド(7-9) 資料2 資料3
展開A (15分)	3 事故発生からリーダーが役割分担するまでの動きについて確認する。【グループ】	○事例を基に、事故発生からリーダーが役割分担するまでの動きについて具体的にイメージさせ、ワークシートに記入させる。  ○各グループのワークシートを比較させ、必要な動きについて全体に説明する。	進行スライド (10-14) ワークシート
展開B (30分)	3 事故発生から救急車要請までに必要な動きについて、シミュレーション訓練を行う。【グループ】	○事例を基に、事故発生から救急車要請までに必要な職員の動きについて、2つの班に分かれてシミュレーション訓練を行う。  ○他グループの教職員は、シミュレーション訓練の様子を撮影する。	進行スライド (10-13) 資料3・4 心肺蘇生法訓練人形 AEDトレーナー ビブス
<p>&lt;シミュレーション訓練の内容&gt;</p> <p>○教員役と児童生徒役に分かれ、第一発見者(授業担当者)が職員室に応援要請し、救急車が到着するまでの一連の流れを確認する。</p> <p>○児童生徒役は参観し、批判的な視点で動きを観察する。</p> <p>&lt;振り返り&gt;</p> <p>○「発生場所と職員室の動き」を動画で確認し、意見交換を行う。</p> <p>○改善点を基に、班を交換して再度実行する。</p>			
まとめ (5分)	4 研修の振り返りを行う。【個人】	○Google フォームを活用し、研修の振り返りを行わせる。	進行スライド (15)(14)

### <活用資料>

○(資料1)「あなたにしか救えない大切な命～君の瞳とともに～ASUKAモデル編」

(公益財団法人日本AED財団)



○(資料2)「学校事故対応に関する指針」(文部科学省)



○(資料3)「救命アクションカードを活用した緊急時の対応訓練モデル」

(宮城県東部教育事務所)



○(資料4)「学校等事事故事例検索データベース」

(独立行政法人日本スポーツ振興センター)

